

クロシジミ *Niphanda fusca* (Bremer et Grey)

【選定理由】

愛知県の生息地は、東三河の4地域に限られる。旧鳳来町や旧作手村では、1995年ごろまでは確実に発生していた。

ここ20数年来現在に至るまで公式記録はない。全国的にも減少が報じられている。

【形態】

全翅長は20mm程度。♂♀の翅形の差異は著しく、♂の翅型は尖るが、♀では幅広く丸みが強い。♂の翅表は暗紫色に光る。♀は一様に暗褐色を呈するが、前翅表に白斑を現す個体も稀ではない。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城市(旧作手村、旧新城市、旧鳳来町)、設楽町(旧津具村)の4地域から記録されているにすぎない。近年まで、旧鳳来町では継続して生息が確認されていたが、環境の変化により生息が確認できなくなった。最近の公式記録はない。

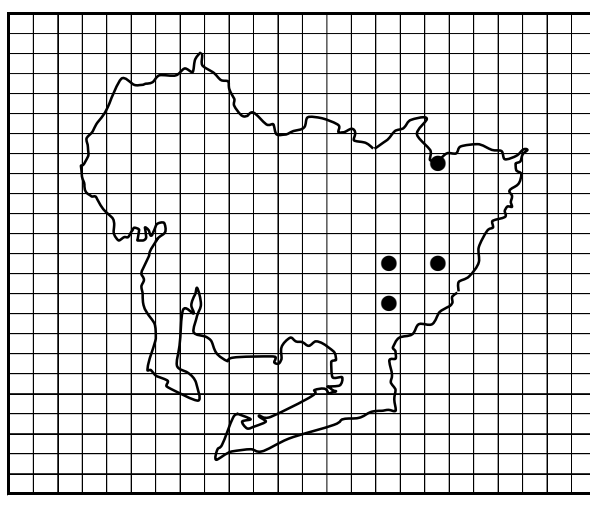
【国内の分布】

本州、四国、九州に分布するが、一般に局地的である。

【世界の分布】

朝鮮半島、中国東北部、中国、シベリアに分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

愛知県では、丈の低いコナラなどが生えている裸地が生息地として確認されている。本種と密接な関係を有するクロオオアリが、このような環境に好んで巣を設けている。

1950年に永山文昭氏により、初めて特異な生態が解明されている。年1回、6~8月に発生する。♂は、樹上を活発に飛び回ることが多い。♀は、コナラなどの樹木や草に数卵産み付ける。その場所は、アブラムシの寄生した付近が選ばれる。孵化した幼虫は、アブラムシを訪ねるクロオオアリによって巣の中に運び込まれる。これは、クロオオアリが本種の幼虫の腹節の蜜腺からでる蜜を特に好むからである。幼虫はアリの巣のなかで冬を越し、翌年の晩春に蛹になり巣の中で羽化する。遅れて羽化した個体は、クロオオアリに食べられる。

【現在の生息状況／減少の要因】

生息地の草原やそれに連なる疎林の植生遷移や管理放棄もあり、背丈の低い樹木混じりの明るい草地が減少するとともにクロオオアリの巣作りもなくなり、それに連動して本種も発生しなくなって久しい。ここ10数年来、現在に至るまで公式記録はない。この現象は全国的といわれている。なお、三重県の鈴鹿山地では、荒れ地的な環境に本種が生息(河本, 2004)し、近年は、むしろ記録数が増えている傾向にあるという。一方、丘陵部の生息地は、生息に適した雑木林の消失で減少が著しいという(中西, 2015)。山地での生息地が知られていない本県については、更なる継続調査が必要である。

【保全上の留意点】

クロオオアリは、伐採されて数年経つような草原と疎林が連なる明るい裸地を好むので、このような環境の確保が必要不可欠である。併せて継続した間伐の実施などによる環境保全管理・復元が望まれる。

【引用文献】

河本 実, 2004. 鈴鹿山系(三重県)のクロシジミ近況報告. ひゃくとりむし, (251): 3004-3006.

中西元男, 2015. クロシジミ. 三重県レッドデータブック 2015~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~: 213. 三重県農林水産部みどり共生推進課, 津.

【関連文献】

白水 隆, 2006. クロシジミ. 日本産蝶類標準図鑑: 135. 学習研究社, 東京.

(2009年版を一部修正)